

## 編集後記

今日は気合いを入れて臨んだ手術が腹膜播種のために単開腹・非切除となり、ぼっかり時間が空いたのでこの編集後記を書いています。肝門浸潤した進行胆嚢癌で減黄はENBDで行いましたが、明らかな漿膜浸潤があったので仕方ありません。

さて、今回の特集では「いま、胆道鏡検査 PTCS・POCSを見直す」を取り上げました。“PTCS といえば名大一外”といわれるくらい、われわれの科では PTCS を盛んに行っていました。1980 年代(当時、私は新米医員でした)、私の恩師である二村雄次前教授と本特集の序を書いていた神谷順一先生が中心となり、胆管狭窄に対する良・悪性の鑑別、胆道癌の進展度診断、肝内結石症の治療などに PTCS は大活躍でした。特に表層拡大進展を伴った胆管癌の診断では PTCS は必須であり、二度三度と検査が行われ、30 個以上の生検検体が採られることも珍しくありませんでした。1977～1990 年には切除した肝外胆管癌の実に 65.4%!(66/101)にも PTCS が行われていました。しかし、その後は次第に減少し 1991～2000 年は 45.1%(73/162)、2001～2003 年は 23.5%(24/102)、2004～2005 年は 11.3%(12/106)となり、2006～2007 年には 1.8%(2/112)にまで減少しました。

何故でしょう? なんといっても PTCS は invasive な検査法であり、施行するまでに少なくとも 2 週間はかかります。瘻孔再発も大きな問題です。また、浸潤型の胆管癌に対しては診断的な意義がほとんどないことがわかってきました。さらに、表層拡大型胆管癌ではその予後は主病巣の進展度に左右され、たとえ胆管切除断端が carcinoma in situ で陽性になっても survival impact は少ない、といったことも明らかになってきました。こういったことが PTCS の適応を次第に狭めていったように思います。一方、POCS は最近普及しつつある検査法で、電子スコープの画像はびっくりするくらいきれいです。瘻孔拡張をしなくてもいいし、瘻孔再発の問題もありません。生検の正確さではまだ PTCS には及びませんが、今後改良されていくでしょう。

大切なことは、“種々の modality を用いて正確な進展度診断をしても、それが生存率の向上に寄与しないのであれば臨床的な意味は乏しい”ということです。また、外科医の立場からいえば、“ある検査を行っても術式が変わらないのであれば、その検査の意義は少ない”ということです。こういったことを念頭において、画像診断を進めていくべきであると考えます。本特集が、PTCS・POCS の適応を考えるうえで皆様のお役に立てば幸いです。

(榎野正人)

|      |       |       |        |
|------|-------|-------|--------|
| 編集顧問 | 有山 襄  | 竹原 靖明 | 望月 福治  |
| 編集幹事 | 二村 雄次 | 神澤 輝実 | 工藤 正俊  |
|      | 角谷 真澄 | 榎野 正人 | 真口 宏介  |
| 編集委員 | 國土 典宏 |       |        |
|      | 山雄 健次 |       |        |
|      | 朝倉 徹  | 跡見 裕  | 猪狩 功遺  |
|      | 石川 洋子 | 市川 智章 | 伊東 克能  |
|      | 乾 和郎  | 今井 裕  | 植木 敏晴  |
|      | 太田 哲生 | 岡崎 和一 | 梶原 建熙  |
|      | 兼松 雅之 | 川崎 誠治 | 蒲田 敏文  |
|      | 鬼島 宏  | 木下 壽文 | 木村 理   |
|      | 熊田 卓  | 小井戸一光 | 近藤 哲   |
|      | 坂元 亨宇 | 佐々木 洋 | 下瀬川 徹  |
|      | 須山 正文 | 高安 賢一 | 高山 忠利  |
|      | 竹内 和男 | 武田 和憲 | 田中 雅夫  |
|      | 土井隆一郎 | 長川 達哉 | 信川 文誠  |
|      | 長谷部 修 | 廣橋 伸治 | 本田 浩   |
|      | 眞栄城兼清 | 前谷 容  | 松井 修   |
|      | 村上 卓道 | 森 宣   | 森安 史典  |
|      | 柳澤 昭夫 | 山下 康行 | 山野 三紀  |
|      | 竜 崇正  | 渡辺 五朗 | (五十音順) |

(五十音順)

### ・掲載広告索引

|                        |       |
|------------------------|-------|
| アステラス製薬(株)             | 377 頁 |
| エーザイ(株)                | 表 2   |
| オリンパスメディカルシステムズ(株)     | 378 頁 |
| 東芝メディカルシステムズ(株)        | 表 3   |
| バイエル薬品(株)              | 表 4   |
| ボストン・サイエンティフィックジャパン(株) | 381 頁 |

### 肝胆膵画像(第 10 巻第 5 号)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 本誌編集室直通 (03)3817-5714 (担当)藤田・中田

FAX (03)3815-7802・3815-7982

E-mail: gazo@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kantansui/

2008 年 9 月 15 日発行(隔月 15 日発行)

定価 3,675 円(本体 3,500 円+税 5%)

2008 年年ぎめ予約購読料 21,930 円

(年間 6 冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 (株)アイワード ☎(011)241-9341(代)

広告取扱 (株)文京メディカル ☎(03)3817-8036(代)

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. ©2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有いたします。

・ **JCLS** (株)日本著作出版権管理システム委託出版物)

・ 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。